

**Bコース (上限 50万円) 【提案書】** **【公開】**

<b>提案名</b> ※25文字以内	高島水際線公園の生物調査とその楽しい使い方の研究
<b>グループ名</b> ※25文字以内	都市型干潟の楽しい使い方研究チーム

**【1】 提案グループの現在の主な地域社会貢献活動の内容及び最近5年以内の実績、またグループの紹介を記入してください。**

本研究チームは、市民・研究者・企業・行政が連携し都心部にある干潟をより楽しく利用するための工夫について研究を行ってきました。平成 24 年度は、高島水際線公園において生き物調査を行いつつ MM21 内で海に思いを寄せて活動するグループとも連携して、地域の家族の参加を得てハゼ釣り調査大会を実施し、水際公園は水辺の自然と触れ合える貴重な場であり、大人から子供まで楽しく過ごせることを実証しました。また、水際公園をより多くの生き物が生息し、それらを観察できるようにするために、だれでもができるような工夫についても実証的に検討しております。

■ ホームページ <http://www.meic.go.jp/wiseflat/index2.html>、<https://sites.google.com/site/hamaumi/>

**【2】 助成を受けて行う活動の年間計画を記入してください。**

月	内容
4月	生き物調査、会議①(年度方針、イベント計画)、チラシ作製
5月	会議②(イベント実施計画)、イベント①かいぼり調査
6月	会議③(イベント計画)、チラシ作製、生き物調査
7月	会議④(イベント実施計画)、イベント②エビ釣り調査(タイの前にエビを釣ろう)
8月	
9月	生き物調査、会議⑤(イベント計画)
10月	会議⑥(イベント実施計画)、イベント③ハゼ釣り調査
11月	
12月	
1月	
2月	会議⑦報告書作成
3月	高島水際公園生き物調査結果と使い方研究の報告討論会

**【3】 助成を受けて行う活動の内容について、次の項目に沿って記入してください。**

- (1)活動の内容 (2)活動の主催者及び参加者 (3)活動を実現するための方法 (4)時期 (5)場所
- (6)当地区で活動を行う、また応募の理由 (7)活動を行うことによる当地区へのメリット(効果)
- (8)その他、特徴やアピールする点

## (1) 活動の内容

- 干潟の潮だまりなどの水質（水温や塩分など）を測定する。
- 干潟面等の生物の生息状況を観察しスケッチ等で表現
- 手網等で魚類を調査して種類等を分析する。
  - ①干潟内のゴカイや貝類、カニ類などの調査
  - ②手網による潮だまり部の魚介類の捕獲調査
  - ③釣りによるエビ（テナガエビ）の生息調査
  - ④皆掘り調査による魚介類の捕獲調査（池の水を掻き出して中の生き物を調べる）。
  - ⑤ハゼ釣りによるハゼの生息状況調査

## (2) 活動の主催者および参加者

主催者：都市型干潟の楽しい使い方研究チーム・（協力）ハマの海を想う会

参加者：地域住民、高島水際公園訪問者・散策者

## (3) 活動を実現するための方法

平成 24 年度に実施しており、継続実施が可能です。

## (4) 時期

前頁計画に示したとおりです。

4月、5月、6月、7月、9月、10月、2月、3月

## (5) 場所

高島水際線公園

## (6) 当地区での活動を行う理由

- ①地域の人々が水辺とふれ合い場として整備した潮入りの池と干潟が存在すること。
- ②干潟での楽しみ方をご存じない都市住民が少なくないこと。
- ③都市で身近な自然とふれ合いができる場づくりは今後各地でのニーズが考えられ、当地区の水際線公園はその先行事例となっていること。
- ④応募により、より多くのスタッフ参加が期待でき、その結果こうした活動の広がりにも貢献できる。

## (7) 活動を行うことによる当地区へのメリット

当地区は、海に面した港としての歴史と文化がある。海との関わりはその記憶を呼び覚まし、街に潤いや精神的な豊かさをもたらすものと期待できる。

また、地元企業や住民の方々が一緒になって地域の共有財産でもある海辺の自然を見つめ、触れ合うことを通じて、コミュニケーションが生まれ地域のつながりにも貢献できると考える。

## (8) その他のアピール

本提案のアピール点は次の2点です。

- ① 24年度は、地域との連携を模索しましたが、次年度は地域が自律的に活動できる方向性を模索します。平成 25 年度は地元住民等も加わる「ハマの海を想う会」の協力で調査やイベントを実施します。研究の成果は全国に波及すべきものですが、当地区の活動を継続していくためには地元根付いた活動となっていく必要があり、地元の団体がさらに多くの地域の企業や住民の方々と協働して自律的に取り組めるような枠組みの構築を目指していきたいと考えております。
- ②活動を通じて、海辺での楽しい過ごし方だけではなく、安全対策として地域の地盤高さと水位変動との関係などについても説明を行い、津波や高潮などの自然災害に関する理解を深めていただくような取り組みを行います。

# 収 支 予 算 書

グループ名 都市型干潟の楽しい使い方研究チーム

1 収入 (自己資金や他の助成金などを記入してください。)

項 目	金 額	説 明 (負担者及び負担方法等)
助成金 (A)	462,400	
自己負担等	115,600	
合 計 (B)	578,000	(B) ≥ (C)

2 支出 (助成金対象経費分)

項 目	数量 (単位)	単 価	金 額	説 明
会議費	8回	10,000	80,000	イベント3回につき各2回実施 (浜海会との合同)
交通費	104人	2,000	208,000	会議6回、イベント3回、調査 ほか4回、スタッフ参加各8名
材料費	1式	200,000	200,000	釣りイベント仕掛け等
チラシ印刷費	1式	60,000	60,000	イベントチラシ (1,000 枚×4回程度)
報告書印刷費	1式	30,000	30,000	50部程度想定
合 計 (C)	/	/	578,000	【Aコース】(C) ≥ (A) 【Bコース】(C) × 4/5 ≥ (A)